

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002352		
法人名	特定非営利活動法人 いきいきライフ協会		
事業所名	グループホームいきいき東豊中 1階		
所在地	大阪府豊中市熊野町3丁目3番47号		
自己評価作成日	平成24年3月12日	評価結果市町村受理日	平成24年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平24年4月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、今年で9年目を迎えます。月日の流れとともに、ご利用者の状態も大きく変化し、更に個別ケアが必要となってきました。私達は、ご利用者一人ひとりの思いを把握し、その人にとって一番良い暮らしを提供できるよう支援しています。又ここ熊野町は、「くまんだ村」と呼ばれるほど、今だに昔ながらの風習が、沢山残っています。地域行事として、近隣神社のどんど祭りや、みこし祭りは、ご利用者の心を元気にし、又いつでも手を合わせる癒しの場所として、毎日散歩に出かけています。又子供たちと触れ合いたいと思えば、ホームの前には中学校があります。学校行事の、運動会や音楽会等に招待して頂いたり、毎年体験学習として、元気な生徒の皆さんが、お手伝いに来てくれます。この素晴らしい環境の中で、私達職員は、ご利用者と共に楽しく過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所のすぐ近くに「獅子神事祭り」で知られる豊中八坂神社がある。正月には初詣の善男善女がホームの前まで行列ができるらしい。向いが中学校で、この生徒達はウエス(古布)を寄付してくれ、体験学習にも来る。地域とのつながりを大切にきた結果、近隣からの理解と協力が得られる一方、事業所も高齢化する町内に向けて認知症講座を開催して地域福祉に貢献している。昨秋の温泉一泊旅行ではホテルの協力で、お風呂を貸切り、職員も一緒に温泉を楽しんだ。家族と事業所の信頼関係がこのような新しい試みを成功させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げたものだけにならないように、適所に掲示し実践につなげている。又地域密着サービスとして、地域住民と関わりがもてるように、職員は、認知症についての、理解や認識を高め実践につなげている	地域住民とのふれあいを理念に表現すると共に、職員もその意味、その役割を理解して行動している。代表者・管理者・職員の気持ちがひとつになっている様子が感じられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当ホームにて開催された、認知症サポーター養成講座へ、参加の呼びかけを行い、地域住民の方へ認知症に対する認識を高めて頂いた。又グループホームの暮らしについて、説明をおこない理解して頂くことで、日常的な交流につなげている	法人が運営する高齢介護支援事業グループが地域福祉との連携を進める中で、当事業所も認知症サポーター講座等を担当して地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントには積極的に参加し、地域住民との交流を広めている。地域の受け入れ態勢も以前より良くなっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にて報告や情報交換は豊富にあるが、実際にサービス向上の為の結果につながることは、まだ少ないと思われる	地域代表として自治会長、民生委員及び行政の担当者も出席して、事業所からの行事報告や認知症高齢者の救急搬送時の課題について意見交換が行われている。	地域密着活動の一つとして運営推進会議の開催があるが、議事録送付や参加案内で家族との接点の場として活用する事も期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議にて市役所役員、地域包括支援センター、地域関係者へ事業所の実態を報告し意見アドバイスを受けている。又電話での相談は随時行っている	市の職員が複数で運営推進会議に出席したり、市と連携した認知症講座を事業所で開催する等、高齢者介護に向けた取り組みを市と協働で実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リビング扉は開錠し、玄関までは自由に行きできています。玄関の施錠については、安全確保の為職員が見守られる時間のみ、開錠になっている	「身体拘束をしないケア」「虐待につながる対応」の法令遵守を職員に徹底している。安全を優先して、玄関の施錠や階段の安全装置もあるが、職員による見守りで利用者の気持ちを落ち着かせる努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、告知義務にて防止に努めている。又言葉の虐待についても、見逃さないように研修等で認識を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度等については、家族様と話し合い個々の必要性を重視している。又ご家族が安心してそれらを活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて十分な説明を行っている不安や疑問についても理解されるまで説明をおこない、納得頂いてる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、必ず近況報告を行い、意見や要望が気軽に言ってもらえるように、和やかな雰囲気をつくっている。「言いにくい事」については、意見箱を設置し、対応できるようにしている	家族へ細かい点まで報告されている。家族来訪時の個人記録の閲覧説明、毎月担当者が健康状態、食事、排せつ、入浴、睡眠、日中の活動について自筆の書面で報告している。家族の評価は高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、職員の意見等があれば管理者、リーダーと話し合い代表者へ提案し、即時対応している	現場の意向を聞き、即断即決する代表者、明るい職場づくりに努力する管理者、家族から信頼されている職員、チームワークの良い職場環境で利用者への支援がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員雇用形態就学条件を考慮し、且つ本人の能力、努力を評価した賃金体制としている。又厚生労働省実地の、処遇改善事業の導入により職員の処遇改善を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせた、研修の参加を促し、その研修報告は会議等でおこない、職員全員で認識を高めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと、一泊温泉旅行にでかけた。共に活動する事で、それぞれの良いところを取り入れ、今後のサービスの質の向上につながった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に受容体制で聞き取りをおこない、ご利用者の立場に立って全て受け止め、安心した信頼関係がつかれるように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や悩みを抱えているご家族に対し、その人の立場に立って考え、又本音の部分を見逃す事の無いように、慎重に傾聴しながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご利用者との、悩みや不安はそれぞれ違うので互いの思いを心から傾聴し、今一番何が必要なのかを見極めて、多様な方向からの支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の性格や個性を十分に理解し、暮らしの中で出来る事出来ない事を見極め、共に過ごせる関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族の不安を軽減し、安心の中でを共に、ご利用者を支えていけるような関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人との関係が切れない様に、面会時には職員が状況に応じて、立ち合いをおこなっている。又電話のやり取りは居室にて、ゆっくりとおこなっている	利用者の知人や友人の来訪時には、利用者との久しぶりの訪問者との会話を職員が側面的に支援する等、馴染みの関係の維持に心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や個性を十分に理解し、不穏な思いの無いように、タイミングを図り自然な関わりが、持てるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご利用者の面会に出かけたり、家族からの相談等があれば、一緒に考え解決出来るよう支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の個性や性格をふまえて、その人の今を把握し、又ご家族との関わりについても、十分に配慮しながら、互いの希望や意向に添えるよう支援している	意思表示や訴えの少ない利用者には、根気よく、本人の理解に努めた結果、家族以上の意思疎通が、職員と利用者の間で可能になる事例もある。職員のプロ意識を感じる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の心が見えにくい場合は、ご家族等より情報を徴収し、ご利用者にとって一番良い暮らしを提供する為の支援に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり個別ケアをおこない、その日の状態を把握しながら、有する力等の向上に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度の会議で、問題点や改善点を話し合い、又ご利用者やご家族の、本音の部分の情報収集し、ご利用者にとっての、一番良い暮らしが出来る為の、計画書を作成している	毎月カンファレンスを開催して、利用者個々の変化の具合を職員が報告し合い、意見を出し合って介護計画書を見直す流れとなっている。家族の意向を反映させるために、家族の意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、毎日個別の記録を取り、気づきについては、申し送りノート、口答にて職員全員が、情報を共有し実際に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況により、職員が通院の付き添い同行や、又入院の際には、ご家族のかわりに、面会等をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力ボランティアの来訪(ギター演奏・紙芝居・手品・舞踊等)や、地域行事が盛んであり、ご利用者がそれぞれ興味のある行事に参加し、楽しむ事ができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の付き添いが無理な場合や、又病状の説明、本人の状態の説明が難しい時は、職員が付き添いスムーズな受診ができるよう支援している	本人や家族が以前からのかかりつけ医での受診を希望する場合は協力している。内科、整形、歯科の往診体制を構築して、担当医師との密接な連携で早期発見、早期対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診クリニックでは、定期的な受診のほか、24時間体制で、適切な指示を受けることができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医への緊急入院ではお互いのサマリー等の情報交換がスムーズにおこなえる。又近隣には緊急時に受け入れ可能な病院も多く安心して治療を受ける事ができる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や、終末期の対応は出来ない事の説明をおこなっているが、出来るだけ、ご家族の希望や、ご利用者の状態を把握し、本人にとって一番良い暮らしが提供できるように支援している	入所の段階で、終末期への対応について、事業所のできる範囲を説明して、家族の理解と同意を得ている。重度化した時点で、かかりつけ医の意見を聞き、家族と相談して、事業所としてできる限りの支援を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で、毎年心配蘇生法や、応急手当の研修等を施行している。職員は定期的に参加し認識を高めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に、ご利用者はどのような行動を取るのか想定できない為、ご利用者の状況に応じて臨機応変に対応できる様、マニュアルを作成し訓練を施行している	万一に備えて、職員が適切な行動がとれるように、管理者が抜き打ち的に個人訓練を実施している。運営推進会議では地域の協力を依頼している。	避難通路の確保、消火器の確認、整理整頓、マニュアルの点検等日程を定例化する防災対策を職員で検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを徹底し、その時の、ご利用者に合わせた対応をおこなっている。特に排泄誘導では、ご利用者の心を、傷つける事のないように注意しながら、無理強いせずおこなっている	利用者のプライドに配慮した対応を心掛け、プライバシーや個人情報の保護への注意を全職員に徹底している。職員の話し方も優しく、相手を尊重した対応になっていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分な意思疎通が出来ない利用者様へは、ボデータッチや、手を握りながら声かけを行い、表情を見極め、自己決定できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位、ご利用者優先を忘れず、その日の体調や、訴えを見極めて、ご利用者のペースで、暮らせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容では、本人の希望でカット・カラーをおこなっている。又希望により眉毛カット・メイクをし、写真撮影をおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者やご家族の、情報を得て出来るだけ意向にそった献立を立てている。食後の食器洗いや、トレー拭きは進んで、ご利用者がおこなってくれている	職員の心のこもった手作りの食事が提供されている。準備や後片付けも生活リハビリと位置付けて、利用者の参加を促している。手作りの食事を家族は高く評価している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者に応じて、刻み食やミキサー食を提供している。又その日の体調等により、メニューを個人的に変えている。水分は脱水にならないように、個別にチェックをおこない対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、一人ひとり口腔ケアをおこない、できない所は、職員が介助している。又ミキサー食の、ご利用者へは、汚れや臭いが残らないように、口腔ウエットにて、ケアをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が見られてもパットを出来るだけ使用せず、ご利用者の排泄パターンを把握し、排泄誘導をおこなっている。声かけ時も、ご利用者の心を傷つけないように配慮し支援している	特に日中は事前のトイレ誘導を心掛けて、自立した排泄が出来るだけ可能になるように支援している。個々の記録を取って、家族に状況報告も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて、個々の排泄リズムを把握し、便秘になる前に、飲食物や運動等を積極的にいき、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者のその日の体調や気分を受け入れ、順番を決めずに臨機応変に入浴をおこなっている。入浴されない、ご利用者へは、足浴を施行している	利用者個々の希望を聞き、入浴する様に支援している。拒否のある場合は時間を変え、日にちを変えて納得して入浴してもらうようにしている。必要により清拭、シャワー浴に切り替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の申し送りと、その日の申し送りや体調に応じて、休息を促している。又無理に就寝を勧めるのではなく落ち着かれるまで、職員は寄り添い安心して、入眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	殆どの、ご利用者は服薬の認識は無く、その為職員は、目的や用法等を確認し、二人体制(四つの目)で、ミスが無いよう慎重におこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報や、ご利用者との会話の中から、役割や楽しみごとを見つけ出し、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望があれば、可能な限り外出できるように努めている。又、ご利用者、ご家族の希望である一泊温泉旅行もホテル等の協力を得て、実現することができた	他のグループホームと一緒に1泊旅行が行われた。温泉を貸切って利用者がゆっくりとお風呂に入り、食事をして楽しむ等、全職員の利用者に対する優しく、温かい気持ちが感じられた試みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に、金銭管理はおこなっていないが、買い物等へ出かけた際は、見守りの元支払いを促し、使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、職員が取り次ぎ居室にてゆっくり、ご家族や友人等と話せる時間をつくっている。お正月には年賀状にての、やり取りができています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレから、浴室へつながる扉があり、汚染時には不快や混乱をまねくことなく、素早く対応できるようになっている。又踊り場を改装した、和風スペースは混乱や不穏時の、ご利用者にとって気分転換できる場所になっている	玄関から階段部分には外からの自然の採光がある。リビングも明るくゆったりしている。ひとりになったり、利用者同士でくつろげる場所も確保されている。トイレと浴室が繋がっているのが特長である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適所に設置しているソファは、気の合う同士や又一人でのんびりと過ごす場所となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には、危険なもので無い限り持込の制限は無く、ご本人が穏やかに過ごせるように工夫している。又職員となじみのものを、見つけることで、楽しみのある、居室になるよう努めている	居室は清潔であり、本人の馴染みの家具や品物、ご主人と写した写真、自分で描いた絵が飾られて、利用者が落ち着いて過ごす部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングから洗濯干し場が見える為、ご利用者は「もうそろそろ洗濯物を入れようか」と、ご利用者の意思で職員が見守りの元、取入れ等をおこなっている		